

# 9月の消防広報重点事項

発行 令和2年8月11日  
盛岡市危機管理防災課  
編集 盛岡中央消防署

## ● 防災週間の実施について (8月30日から9月5日まで)

9月1日(火)は「防災の日」です。

この日は、1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災にちなみ、関東大震災の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風に対処する心構えを準備するため、1960年(昭和35年)に制定されました。



もしもの時に備えて防災グッズの準備や点検をするとともに、避難場所の確認などを行いましょう。

盛岡市では、9月1日に、「1分間で身に付く、防災意識。令和2年度盛岡市シェイクアウト」を実施します。

場所や天候を選ばず、どこでもどなたでも参加できる訓練です。

※「シェイクアウト」とは、地震災害を想定し、自らの身を守る安全確保行動をいいます。

参加の方法など詳しくは・・・盛岡市ホームページ(<http://www.city.morioka.iwate.jp/>)

【お問合せ】盛岡市総務部危機管理防災課

電話：019-603-8031 メール：[shakeout@city.morioka.iwate.jp](mailto:shakeout@city.morioka.iwate.jp)

## ● 9月9日は「救急の日」です。

**大切な命を救うため、救急車の適正利用にご協力をお願いします。**

近年、救急車の出動件数が増加しています。救急出動件数が多くなれば、遠くの救急隊が出場する確立も高まり、現場までの到着時間が遅れ、救える命が救えなくなるおそれがあります。



緊急性がなく、自分で病院に行ける場合は、救急車以外の交通機関等を利用してください。

傷病者の様子や事故の状況などから、急いで病院へ連れて行ったほうが良いと思ったときは、迷わず119番通報をしてください。



ゆずってあげよう

## ●地震や風水害時の「通電火災」に注意！！

通電火災は、地震や風水害により停止した電力の復旧時に発生します。

この火災が注目されたのは24年前の阪神・淡路大震災のときで、東日本大震災で発生した火災のうち約65%が電気に起因する火災によるものと言われています。

通電火災は、その家の住人が避難してから発火するケースがほとんどで、初期消火が難しく、延焼のおそれ大きいのが特徴です。

### 通電火災を防ぐには

- 停電中は電気機器のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜く。
- 停電中に自宅から離れる際は、ブレーカーを落とす。
- 地震発生時の設定値以上の揺れを感知したときにブレーカーやコンセントなどの電気を自動で止める感震ブレーカーを設置する。
- 電気が復旧したら、電化製品が破損していないか、配線やコードが損傷していないか、十分に安全を確認してから使用する。

建物や電気機器に外見上の損傷がなくとも、壁内配線の損傷や電気機器内部の故障により、電気の復旧後、長時間経過してから火災に至る場合があるため、煙の発生等の異常を発見した際は、直ちにブレーカーを落とし、消防機関に連絡してください。

## ●盛岡市内の1月から7月までの火災件数

	令和2年	令和元年	比較増減
火災件数	18件	27件	9件減
死者数	2人	3人	1人減

## ●令和2年7月中の火災3件の内訳

- 7月9日 永井 共同住宅1棟半焼
- 7月16日 東新庄一丁目 住家1棟ぼや
- 7月25日 玉山字大二子 大型特殊自動車1台焼損